

「保険でよい歯を」東京連絡会 第17回定期総会アピール(案)

## いつでもだれもが安心してかけられる歯科医療の 実現をめざして運動をつよめましょう

今年8月の総選挙の結果、長い間私たちを苦しめてきた自公政権が退場し、民主党・社会民主党・国民新党3党による鳩山新政権が誕生しました。その背景には、「いまの政治を何とかしてほしい」という国民の願いと行動であったことは言うまでもありません。

そして開かれた臨時国会では、肝炎対策法と原爆症基金法が成立し、原告団と弁護団による苦難に満ちた運動がやっと実を結んだことは私たちにとっても大きな喜びです。引き続き、全面的な解決に向かって運動がさらに前進していくことを私たちは心から願っています。

いっぽう、後期高齢者医療制度の廃止については、民主党も長妻昭厚生労働大臣も4年後まで先送りするという公約違反の態度を取り続けたことは残念です。存続すれば、保険料が大幅に引き上げられ、高齢者の生活はますます困難になります。来年に向かって、「いまずぐ廃止せよ」の声をもっともっと大きくしていきましょう。

同時に、「医療崩壊」は、歯科においてはより深刻です。私立歯科大学の入学者が定員割れとなり、歯科衛生士学校や歯科技工士学校では募集停止や閉校に追い込まれるところが出ています。東京では50%の歯科診療所に資格を持った歯科衛生士がいません。このままでは、明日の歯科医療の担い手がいなくなってしまうのではないかと心配されます。

こうしたなかで、私たちは、「保険で良い歯科医療を」の世論を高めようと、シンポジウムや「イイハデー」などの企画を成功させ、「いつでも、どこでも、だれもが安心してかけられる『保険で良い歯科医療を』の実現を求める署名」活動に取り組んできました。集められた署名数は46,000筆以上となり、全国の2割近くを占める大きな成果をあげることができました。

いま、「保険で良い歯科医療を」の連絡会が全国に広がりつつあります。私たちも保険証一枚で、だれもが安心してかけられる「保険で良い歯科医療」の実現をめざし、運動をつよめていきましょう。

右、決議します。

2009年12月12日

「保険でよい歯を」東京連絡会 第17回定期総会